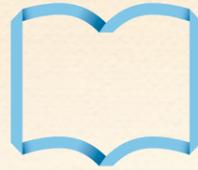




菊池市立図書館ホームページ http://www.library-kikuchi.jp

- 中央図書館 ☎0968(25)1111 [休館日]月曜日
泗水図書館 ☎0968(25)1115 [休館日]月曜日・月末・祝日
七城図書館 ☎0968(25)1580 [休館日]日曜日・祝日
旭志図書館 ☎0968(25)3332 [休館日]日曜日・祝日



菊池市立図書館 Kikuchi City Library

絵

読み聞かせにおすすめ! 本の世界



オニじゃないよ おにぎりだよ

シゲタサヤカ/作(えほんの杜)
おにぎり好きの3匹のオニたちが、おいしいおにぎりを人間に食べさせようと、自分たちで作ったおにぎりを街へ持っていきます。ところが、人間たちはオニを見るなり大慌て。おにぎりを食べてくれませんか。一体オニたちはどうするのでしょうか。(所蔵館:全館)

今月のおすすめ図書

- 中央図書館
古今妖怪彙編 湯本豪一/著
手作りキャンドルのプレゼント 堀崎カオリ/著
ユーコン川を筏で下る 野田知佑/著
戦国武将列伝 レッカ社/編著
もぐらちゃんちのおひっこし ようふゆか/絵、にこら/作
詩人なんて呼ばれて 谷川俊太郎/語り手・詩、尾崎真理子/聞き手・文
your name. Makoto Shinkai/著
泗水図書館
古都再見 葉室 麟/著
ライオンは仔猫に夢中 東川篤哉/著
保育で使える!ワクワク手袋シアター amico/著
続あなたのために 辰巳芳子/著
地面の下をのぞいてみれば... カレン・ラッチャナ・ケニー/文
あいたくなっちゃったよ きむらゆういち/作
七城図書館
西郷どんとよばれた男 原口 泉/著
浅き夢みし 佐伯泰英/著
僕はロボットごしの君に恋をする 山田悠介/著
かえたい二人 令丈ヒロ子/著
あいたくてあいたくて みやにしたつや/作・絵
ソード・アート・オンライン20 川原 礫/著
旭志図書館
末ながく、お幸せに あさのあつこ/著
ぶぶ漬屋稲茶にごぞいます 今井絵美子/著
正しい体幹トレーニング 有吉与志恵/著
みーんなはははっ オームラトモコ/作
ルラルさんのだいくしごと いたうひろし/作
せつない動物図鑑 ブルック・バーカー/著

図書館からのお知らせ

中央図書館 臨時休館

2月28日(水)は特別整理のため、中央図書館は臨時休館します。七城・旭志の2館は開館しています。

図書館活用法

1 市内4館、どこでも貸出と返却が可能!

市内4つの図書館で、貸出と返却ができるようになりました。例えば、中央図書館で借りた本を七城図書館で返却してもOK。この機会に各図書館を巡ってみてはいかがでしょうか。



従来の図書館利用カード(左)に加え、中央図書館オープンに併せて新たに3種類のデザインが新登場!

新しいカードへの切り替え(再発行)は3月末まで無料です。4月からは有料(100円)になります。

2 図書館資料の予約・取り寄せ

貸出中の資料は予約ができます。また、市内の他の館にある本を取り寄せることも可能です。例えば、泗水図書館の本を旭志図書館で借りることができます。

3 ホームページがリニューアル

図書館のホームページが新しくなりました。資料の検索に加え、パスワードを登録すると自分の予約貸出状況を確認でき、予約や延長も可能になりました。また、お気に入りの図書館資料をリスト化できる「わたしの本棚」もあります。ぜひ登録してお試しください。

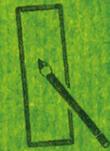
4 記録に便利な図書通帳

図書館で借りた本を通帳に印字し、記録に残すことができます(雑誌やCD・DVDは含まない)。市内小中学校の皆さんの場合は、学校図書館で借りた本も併せて印字ができます。本との出会いを記録に残したい人はぜひご活用ください。



貸出履歴が記録できます!

※図書通帳は各図書館で1冊100円で販売中です。



肥後狂句水笑会

12月例会
いつぱんどま 愛しとるてち言うてみれ
手に負えん 双子と年子育てにゃん
どこか変 置いた所が動いとる
干からびて かめばかむほ味の出る
スローペース 元日せにゃん大掃除

山宮 柏 御 井
隈上 原 手 手
好美 乗 洗 水
茶由 仏 三 光

旭志文芸教室俳句の会

12月詠草
せせらぎの瀬音のひびき草もみじ
鶴を折る無心の媼十三夜
不器用を鳥に見られ熟柿をもぐ
紅葉の庭も湯けむり美肌の湯
干柿の具合確かむ小屋かな

山宮 水 芹 芹 水 芹
隈上 谷 川 川 谷 川
好美 由 尾 川 川 谷 川
茶由 ショ 田 ヨ ショ 田 ヨ ショ

せせらぎ俳句会

12月例会
冬帽子脱ぐふりだけの会積かな
米寿には師走の風は重荷です
網棚の紅葉も旅の土産かな
デコポンのおへそおきと孫笑ふ
忘れ癖例へば鴟の贅の如

藤 服 藤 五 寺 五
本部 本 本 本 本
邦 静 ア 和 義
治 子 子 子 子 子

万句の里俳句会

12月句会
遺影より心の灯もらふ冬
雨音も風音もなく散る落葉
凧の掃き清めたる庭の先
凜として天を突ききたる枯木立
一人居は静か過ぎなり日向ぼこ

加野 岩 田 宮
藤中 木 中 本
妙公 敬 美 敏
子枝 治 智 子

菊池短歌会

1月詠草
寒晴れの残照うすき橋の辺に野いばらの芽は紅くしずもる
霜月の月は大空にかかりつつ途方なき過去あはく照らせり
フルートの音色のあはひ吸う息の音もあやかなりミニコンサート
絡みつつ伸びる自由のところ得て廃屋に蕙の紅葉明るし
盆栽を愛する日々など持ちもせず赤い服着て街へ出て行く

古 岩 安 中
賀 永 藤 留 川
勝 典 則 湯 愛
士 子 子 健 子

さわやか大学文芸クラブ

12月歌会
朝夕を窓越しに見る晚白柚寒気と共に黄色を増せり
幾年月出入り激しく弱りある定年ま近か黄色の財布
露地植えの花の霜除けフレイムが出来て安堵の一日が暮れる
石路の黄に一面つつまされて閑かに眠る松蔭の墓
父遠く夫も逝きたる秋庭に芙蓉の花の一つ咲き居る

山 田 岩 安
城 中 根 東
雅 遙 博 綾
子 子 恵 子

「里」短歌会

12月詠草
五十年それぞれの人生生きてきた 夫らは集う時計台の下
先の見えぬこの歳にして食旨しままならぬ身も短歌は詠みたし
石清水流れもなくともみじ葉の重なりてゆく年の瀬近く
赤い足の夫婦の鳩の朝陽浴び朝餉啄む側をそろりと
思いだせることだけが想い出と昇り消えゆく煙見おくる

前 桑 川 坂
原 野 口 本
ゆ サ 敦 玲
み サ 子 子 子

七城短歌会

12月詠草
ひと夜さの風に双樹の銀杏が境内狭しと黄葉散り敷く
観てまわる人吉資料館先人の苦勞を我の祖先に当てみる
野に通ず山坂道は襲来の寒波で色褪す紅葉で埋もる
音発てて迫るダンブに顔そむく先なる村川魚狙う鷺
ひと通り冬を賄う菜園を娘が見て咳く頑張ったねと

池 高 緒 緒 嶋
田 木 方 方 田
カ 正 緒 緒
ツ 正 方 方 晴
子 俊 子 子 美
精 子 子 子

お詫びと訂正

広報きくち平成29年12月号18ページと、平成30年1月号18ページに掲載した短歌に一部誤りがありました。正しくは次のとおりです。お詫びして訂正します。

- 誤 朝露の光る草叢地に低く吾の巡りをトンボ群れを舞う
正 朝露の光る草叢地に低く吾の巡りをトンボ群れ舞う
誤 微笑みの慈しみ満つお出ましは秋晴れの皇后「春秋の間」
正 微笑みの慈しみ満つお出ましは秋晴れの皇后「春秋の間」
誤 微笑みの慈しみ満つお出ましは秋晴れの皇后「春秋の間」
正 微笑みの慈しみ満つお出ましは秋晴れの皇后「春秋の間」